

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	小山 洋一	所 属	社会人連盟
大 会 名	第 3 回 JSB 関東ブロック審判講習会		
期 間	2 0 2 5 年 8 月 9 日（土） ～ 1 0 日（日）		
会 場	武蔵野総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 5 日	審判会議・ZOOM 机上講習	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8 月 9 日	実技講習	武蔵野総合体育館	
8 月 1 0 日	実技講習	武蔵野総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
●桑原 一貴 氏（東京都）			
『3 PO のベーシックなメカニクスと IOT とプレーコール（判定力）を向上させるには』～楽しさの再確認～			
レフリーのイメージってどんなものを持っていますか？→色々なイメージがある中で根幹にあるバスケットが好きか自問自答しながらやって欲しい。初心に戻って上手になりたいという気持ち、できた喜びなどポジティブな気持ちを持つ。			
認知的評価理論：課題遂行に伴う自由選択や、課題遂行に喜びや達成感を味わう。自分がやりたいと、やろうと思ったことはストレスには感じない。			
レフリーで上手くなる道のりをイメージ。できなかった事だけでなく、同じくらいできた事にもフォーカスして評価（エンハンスング効果）していくことで内発的動機が上がる。メンタルとしては試合を通して完璧を求めすぎでは良いパフォーマンスができないので小さなミスは許容して切り替えてやっていく。			
メカニクス：①レフリー技術・・・正しい判定によりゲームをコントロールして円滑に運営するために必要不可欠な技術。			
②いつ誰とでも・・・正しい判定を行うには正しい位置取りが必要であり、また誰と同じクレーンになっても同じメカニクスが求められる。			
① ・②→IOT と自分のプライマリを守り抜く。			
Call the obvious・・・明らかなものを吹いていこう。といってもゲーム中になればマージナルに頼ると白なのか黒なのかわからなくなることがある。目の前で起きている事をゲーム中に白なのか黒なのかを判断していく。			
なるべくマージナルではなく白黒つける。→コール・ザ・オビースに繋がる。			
Stationary & Distance・Stay with the play・・・プレイと近いと大きくゆっくり見え、プレイと遠いと小さく早く見える。動きながら見るとプレイがブレて見える。近すぎず遠すぎず適切な距離で止まって判定する。			
Referee Defense・・・レフリーするものを明確に。DF の状況を把握できるポジションを取り、アクションとリアクションを見極める。			
45° & Open Angle・・・体の向きによって視野に入ってくる情報量が変わってくる事を理解して 45°とオープンアングルを意識する。			
どんなカテゴリーでも IOT とプライマリを常に意識して欲しい。どんなカテゴリーでも基本的な事の繰り返し。			
「3 人で何が起こったのかわからない。」ということがないように。			
例）C to C をプレイヤーに合わせずアスレチックに走る。初めての 3 人だからと思わずに思い切ってローテーションしてみる。			
→ミスしてもカバーできる。迷うことが一番×			

●増淵 泰久 氏（栃木県）『A 級を目指した試合と向き合い方』

皆さんにとって A 級ってどんな人ですか？

→担当できるゲーム（大会）のレベル、CC メンタリティ、メカニクスの理解、強さ、コミュニケーション力、S 級への登竜門、指導ができる経験値、突発的な対応力。

S 級ってどんな人？逆説的に考えると・・・

→A 級は TLG を担当する機会はあまり（ほぼ）ない。S 級と比べ CC、メカ、判定力は？選手的环境や望まれている事の違い。S 級の前に A 級。A 級でも残念ながら全員は S 級にはなれない。

夢と目標を確認・認識。目標は自身の努力と他人の評価で成し遂げられる。夢は実現するには簡単ではない遠い目標。自分の立ち位置と状況からどこがターゲットなのか考えて目標を設定する。

高い目標設定は必須だが、高い目標の世界の映像だけを元にプレカンなどをせずに自分の目の前のレベル感にあった映像・話を扱っていくことを考えて行った方が良い。

A 級になるにはコミュニケーションの向上は必須。コミュニケーションをとるには相手の事を知る事から、相手は自分の事を知らない。

→自分からコミュニケーションをとるのか？or 相手からのコミュニケーションを待つのか？

信念をしっかりと作っていく、持って活動していく。審判はプレイヤーから求められているはず。説明するため、守ってもらうためにもルールを理解することは重要。ルール・精神は大事なものから順々に書いてある。お互いにリスペクトし合うが我々レフリーの立場は強くあるべきという信念も持っていて欲しい。

プライベートも重要。プライベートとのバランスを考え、「その時、最優先すべきことは何か」をぶらさない。他者からの理解・評価を得ることには相手への理解をしていく。（相互関係）

評価は他者がするもの。やることをやっていれば助けてくれる。少しでも「先」を見ながら、知らない景色を見にいく。仲間を大切に。自分一人では絶対に上手いかない。協力は 2 つある。（自分のこと・人のこと）最大の協力は自分のことができる人→自分のことができる人が A 級。

始めて・進めて・終わらせる・・・当たり前のことを簡単なことから丁寧にコツコツと。

ポストカンファレンスなどで映像から振り返らない！！（映像＝答え）映像を見るより先に振り返る。間違えを認めることも必要。

→ゲーム中に瞬間的に振り返りケイデンスコールに繋がっていくのでは！？

担当試合①

期 日	8 月 9 日（土）
対戦カード	三菱 UFJ 銀行 vs クレーンズ
ク ル ー	CC：大津 智人 氏（群馬県） U1：小山 洋一（埼玉県） U2：本間 彩華 氏（神奈川県）
ミーティング内容	
審判主任：松本 祐大 氏（栃木県）	

▶ゲーム前の PGC

初めてのクルーなので、ボールサイド 2 の形成やプライマリを守るなどベーシックなメカニクスをやっていく。ゲーム中もしっかり選手、コーチだけでなくクルーでもしっかりコミュニケーションをとって情報を共有していく。コンタクトに対して白黒、決断していく。

▶ゲーム後のミーティング

クルー全体で良い笛も多く、プライマリレフリーの見え難いところをヘルプ出来ていたり、イレギュラーなケースが起きても協力して正しく判定できていたり、良い部分も多くあった。PGC で話をしたベーシックは具体的にどんなベーシックだったのか？ 3 人それぞれのベーシックの認識はどんなだったのか？例としてファウルのベーシックは何か。判定の基準として RSBQ がベーシックになってくる。判定したもので、プライマリを超えてしまっていたものは越えなければならないものなのか、良かった判定も含めなぜその判定に繋がったのか映像で振り返って欲しい。

▶ゲーム全体の感想

初めてのクルーで 1 試合通してコミュニケーションをとりながら答えを出せたり、修正していけたりした部分は良かったので、誰と組んでもできる様に取り組んで行きたい。良いヘルプやセカンダリーのコールもあった反面、プレイヤー・クルー・ゲームに対して、こうしていかなければいけないという思いが強すぎてプライマリを超えていく場面やセカンダリーとして判定したつもりが映像ではプライマリのタイミングや必要のない笛を鳴らすことがあり再度、プライマリの確認やクルーが判定しているという意識をもっと持つことが必要だと感じた。

担当試合②

期 日	8月10日（日）
対戦カード	葛飾バックボーンズ vs 広尾人
ク ル ー	CC：小山 洋一 U1：江崎 康紀 氏（茨城県） U2：小椋 哉斗 氏（山梨県）
ミーティング内容	審判主任：久保 裕紀 氏（東京都）

▶ゲーム前の PGC

昨日のどの様な感じでレフリーをして、どの様なコメントをもらい、このゲームではどうしていきたいか？明確に目標を立ててチャレンジして行く。それぞれの目標を踏まえて、IOT とプライマリの意識をする。プライマリ内でのオビアスなものを一つずつ丁寧にしっかり判定していく。リードは積極的にローテーションしてみたいもの、見なければならぬものを捉えに行く。コミュニケーションの部分で選手・コーチだけでなく、T.O、クルーとのコミュニケーション、アイコンタクト等の確認もしっかり行う。

▶ゲーム後のミーティング

良い判定、良い協力、良い気づきが多くあり 1 試合通しても大きく崩れることなく治っていたと思う。その中でもっといろんなことにこだわって欲しい。例えば、判定したものに対してのポジションだったり、笛のタイミングだったり、POC だったり。細かいかも知れないがそういうことをこだわって行くことが大事。

プライマリを超えるものに関しては、本当に必要なのか、相手クルーが判定しているという認識、それでもアングルやビジーで判定できないケースもある事も理解して判定する。

▶試合全体の感想

PGC でプライマリや笛のタイミングの話をしてしたが、エリアを超えて CC としてゲームコントロールをしなければと思い判定した部分があったが、実際にクルーと話したり、映像を振り返って見たりすると、本当に出る必要があったのか、クルーが判定していたことがあったのでプライマリの再確認と様々な背景を踏まえて判断する必要があった。また、それらのマインドのセルフコントロールをしていくことが必要であった。笛のタイミングも再度確認し、適切なタイミングで入れられるようにして行く。

ゲーム中、選手の言動へ TF や、キックアウトに対して両チームに同じように笛を入れられた部分は良かったと思うが、プレゼンテーションや円滑なゲーム運営には更にこだわってきたい。

全体の感想

はじめに、JSB 関東ブロック審判委員会の皆様、インストラクターの皆様、お世話になりました。今回もこのような講習会を開催して頂き有難うございました。皆様の厚い指導により今回も非常に有意義な時間になりました。本当に有難うございました。東京都社会人連盟の皆様、T.O 委員会の皆様には細部にわたるご配慮を頂き、大変お世話になりました。有難うございました。受講生の皆様、2 日間に渡り一緒にレフリーをして、試合を見てディスカッションできた事、非常に嬉しく思います。また、今回の講習会へ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会、日頃より活動を共にしている県内審判員の皆様、社会人連盟の皆様へこの場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

昨年度に続き、2 度目の参加となりましたが前回よりも各都県の受講生の勢いを更に感じました。久しぶりにお会いできる方々や初めてお会いできた方々と交流する場ができ物凄く自分が他者に助けられている部分が大きいと実感しました。ゲームはと東京都の社会人リーグの 1 部・2 部を使用させて頂きました。普段は CC に上級の方が入っているゲームを B 級 3 人で吹かなければならな

い難しさを感じると共に A 級になるなら吹き治めて行かなければいけないと強く感じました。2 日間通して指導していただいた点を改めて振り返り、絶えず追求していく事が必要だと感じました。今回学べた事、気づけたことを生かし、新しい発見・気づきができる様、更にはそれらを県内の審判員や今回ともに学んだ仲間と共有して、ステップアップしていければと思いました。そのためにも、まずは自分自身が成長してリードしていける様に精進して参りますのでご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	山宮 紅葉	所 属	社会人連盟
大 会 名	2025 年度東京都社会人オープンリーグ		
期 間	2 0 2 5 年 8 月 9 日 ～ 1 0 日（参加日：8 月 9 日、8 月 1 0 日）		
会 場	武蔵野森総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 5 日	オンライン研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
8 月 9 日	ゲーム LINES vs ORKA HOLDINGS	武蔵野森総合体育館	
8 月 10 日	ゲーム クレーンズ vs 株式会社 エコプラン	武蔵野森総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
● 8 月 5 日 オンライン研修会 （講師:桑原一貴氏、増渕泰久氏）			
○桑原一貴氏「Thema：3 PO の基本的なメカニクス、IOT、プレーコール」			
Sub Thema「楽しさの再認識」			
・レフリーのイメージ			
→バスケットを始めた時 内発的動機（内なる心理欲求）＋自由選択的行動			
→認知的評価理論 課題遂行に伴う自由選択や、課題遂行に喜びを味わうこと。			
課題×自由選択/喜び＋ストレス			
→レフリーで上手くなる道のりのイメージ。			
→エンハンス効果 A:試験の後に褒められる B:試験の後に叱られる C:何も言われない			
<u>グループ A が最も内発的動機が上がった。</u>			
・メカニクス			
01 レフリー技術 正しいコントロールによりゲームをコントロールして円滑に運営するために必要不可欠な技術			
02 いつ誰とでも 正しい判定を行うには、正しい位置取りが必要であり、また誰かとクルーになっても同じメカニクスが求められる。			
→IOT と自分のプライマリを守り抜く。Prayer.Audience.Coach.Media.Referee.TO			
競技が円滑に進行することは、皆の支えが必要。			
→Referee Defense			
レフリーするものを明確にする。ディフェンスを把握するポジション。アクションとリアクションを見極める。			
▶Center ・ベーシックポジション・サイドラインと体の向き・ワーキングエリアの範囲・レフリングする対象・CtoC はアスレチックに。			
▶Lead ・ローテーションしてみる・ローテーションして外れること・ノーワーキングエリア・フェーズ・メカニクスをリードする			
▶Trail ・ワーキングエリア・サイドラインと体の向き・ショットクロック			
→Play Call Start Develop Finish までの間に・Referee DF・Contact・RSBQ その後・Decide・Cadence で判定			
→マージナルという言葉が便利使いされてしまう。			
本当に「吹かなかった」のか。「判断できていた」のか。			
→ステーションリーディスタンス			
◎ <u>バスケットは楽しい。</u> 好きなバスケットにレフリーとして携わる幸せを忘れない。			
<u>シャツの汚れは少し許す。</u> Mistake is part of the game			
<u>IOT</u> レフリングするファンダメンタル			
<u>メカニクス</u> 自分のプライマリを死守するツール			
<u>プレーコール</u> まずはイリーガルとリーガルを仕分ける。			

○増淵泰久氏「A 級審判員を目指すにあたって」

・自己紹介

→2001 年日本公→2009 年上級昇格 (A 級) →2011 年 A A 級昇格→2012 年 FIBA ライセンス取得

・A 級審判員とは。 ・関東大会、全国大会を担当できる力 (機会) ・CCM、メカニクスの理解、判定力 ・強さや毅然とした態度
・目指したいライセンス、S 級への登竜門 ・指揮ができる経験値 ・突発的な応対力

▶逆説的に考えると。 ・TLG を担当する機会は、まだ (ほぼ) ない。 ・S 級と比べれば CC、メカ、判定力は?
・選手的环境は? 望まれていることは? ・S 級を目指す前に A。A 全員は S になれない。
・経験上、少なくとも、数年では全員はなれない。

・A 級を目指すために。 ・自身の立ち位置を理解 ・“夢”ですか? “目標”ですか? ・どんな試合を主に担当するでしょう。
・商品映像、ましてや IRS はそこには存在しない。 ・コミュニケーションの向上は必須。そのための経験。

・プロ審判を志している人。 ・バスケットの変革・トップリーグの経済成長・プロ審判員の存在

→1 部活でも“やらされてるもの”ではない。

→2 プレイヤーとコーチが、必ずしも上位ではない。 なぜルールは存在して、なぜ審判は必要か。

・ルール (法律・規範) の構成

大切なことから書いてある。先の条文が重要

ルールを順番に読み込んで“精神”を理解。 ダメなことが書いてある。⇒書いてないならいいのか。

→1 プレイヤーがいないと、そもそも試合がない・

→2 プレイヤーが審判に要請しているのでは?

なぜ「先か」?、故に双方に「リスペクト」が必要。その前提において「審判の立場」は強くあるべき。

・プライベートとは何か。 順番や位置は人それぞれ。でも他者の理解が前提。最上位にしてはダメなものは何か。冷静に判断。

▶できる限り、やってみる/挑戦してみる。

・仕事をしていく上で考えていたこと

→地元に戻り銀行を選んだ、審判継続したい。 →一生懸命

→正しいと (思った) ことをしたい = えらくなる。 →一期一会

・レフリーの活動から学んだこと

→自分 1 人では“絶対に”うまく進められない。 →2 つの「協力」 自分⇄人のこと

→答えのないコミュニケーション →始めて、進めて、終わらせる (しか…ない)

→同じ試合、同じ場面、同じクルー は 2 度とない。 →信念を持ってやってみて、自分で振り返る。

・今、考えていること

→仕事は役割分担 →「協力」の重要性 →心理的安全性の確保 →人のことは変えられない

・上級を見て感じていたこと

→はじめて、進めて、終わらせる →あたりまえのことを →**簡単なことから →丁寧にコツコツと**

・週末チャレンジしてみませんか。

→審査でない試合で“やっちゃってみる” →隣の人と、その瞬間に“話す” (決断)

→お互いのプライベート、考え方を知る (話す) →“映像”をみる前に、意見を述べる (間違える)

→仲間とのコミュニケーションを大切に。(楽しむ)

○久保裕紀氏、白川義一氏より挨拶

●8月9日 開校式

・この研修会が始まった経緯について。

・ゲームを感じとり、できたことは仲間と共有してく。

・自分の中で、3 人のクルーでマッチするようにしていく。

●ゲーム中にいただいたお話 島袋氏（東京）より。

○フェイクについて。

アールエスビーキューが崩れているのであれば、ファウル

その中で、吹きはしないけど倒れているものに関してはフェイク

明らかにコンタクトがないのに倒れたらフェイク

オフェンスもディフェンスも意図を持っているから、そこを見せようとしてるのかもしれない。意図（チャージに見せようとしてる、ファウルされているようにしている）

○フェイクについて。

・目の前で起こったことをシンプルに判定していく。鳴らす鳴らさないではなくて！

・まずは自分の目の前で起こってることを判定。

できることをコツコツ。目の前をまず第一に。そのあとクルーの前を確認。

●8月10日 閉校式

・ここで出会えた仲間を大切に。

・基本的なABCを大切に。「基礎」が1番大切である。

・ライセンスアップには「運」「実力」「タイミング」がある。

チャンスはいつくるかわからない。自分で考え掴み取る。

・何かをこだわることで、こだわり「すぎる」ことはない。是非探究してほしい。

・現場に足を運んで、レフリーの感覚や臨場感を味わうことを体験してほしい。

担当試合①

期 日	8月9日（土）
対戦カード	LIMES（淡）vs ORKA HOLDINGS（濃）
ク ル ー	CC：山宮紅葉（埼玉） U1：鈴木 陸斗氏（東京） U2：高橋 巨氏（栃木）
ミーティング内容	審判主任：久保 あしみ氏（千葉）

▶PGC

○ベーシックなメカニクス ○丁寧な判定の積み重ね ○情報共有 ○エッジ、デュアルカバレッジの確認 ○チーム情報
○起こりうる現象 clip…

BASICの徹底

▶ゲーム後のミーティング 審判主任：久保あしみ氏（千葉）

・BASICの意識が、判定にもよく繋がっていた。

・転倒等があったケースは、クルーでノーコールとしていたが、研究が必要である。

→各クルー反省

山宮：ゲーム全体を通して、BASICを徹底する意識はあったが、いくつか気になるケースがあった。

自身がボール中心になってしまったこともあったので、しっかり判定ができず判定基準がブレてしまった。

・全体を通して。

→全体的にクルーのリードの位置取りが気になった。 →バックベダルをもっと使うべきだった。

→CCが濃 24番に対しワーニングを入れたところに関しては、もっとコミュニケーションをとってもよかったのではないかな。

→TOコール後の細かい動きの確認。（交代の時、ファウルコールのディレクションにて指す角度）

→ボールマンプレイヤーの追従を丁寧に。コンタクトが無いから追従をしないことはメカとして良くない。

担当試合②	
期 日	8月10日(日)
対戦カード	クレーンズ(淡) vs 株式会社エコプラン(濃)
ク ル ー	CC: 照屋祥紀氏(千葉) U1: 山宮紅葉(埼玉) U2: 白澤健斗氏(山梨)
ミーティング内容	審判主任: 久保裕紀氏(千葉)
▶PGC ○シンプルなプレーコーリング ○ベーシックなメカニクス ○処置ミスなし ○チーム情報の共有、星の数 ○それぞれの昨日のゲームで良かった点の共有。 ○セიმコールについて。○予想される現象、clip… ▶ゲーム後のミーティング 審判主任: 久保裕紀氏(千葉) ○フェイクが各チーム1度ずつあり、その後に淡チームにもう一度4Qでフェイクが付けられた。 →クルーのコミュニケーション不足により、処置ミスに繋がった、 →デリバリーの仕方、選手だけでなくクルーや観客にもわかりやすく伝えなければこのようなミスが起こってしまう。 →各クルーの反省 山宮: コミュニケーションやデリバリーがうまくできなかった。 判定においても、基準を示すことができずにゲームを進めてしまっていた。 クルーとの連携が、少しずつ崩れていき、判定基準やゲーム展開に繋がってしまった。 ・全体を通して。 →トラベリングを一貫して鳴らすことができておりよかった。 →クルーの中でのコミュニケーションの欠如、デリバリーの仕方により、ゲームが止まることが起こってしまった。 →コミュニケーションの取り方に関して、研究してほしい。 自身の癖含め、どのように伝えているのか考える必要性がある。	
全体の感想	
はじめに、今大会の開催にご尽力いただきました JSB 関東ブロックの皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。 この度、男子リーグ戦という貴重な場をお借りし、自らもチャレンジする気持ちを持ってコートに立ちました。男子のスピード感や迫力、プレーの質の高さなど、すべてをオンコートで肌で感じることができました。女性審判員として男子ゲームのコートに立つ機会は多くなく、プレーに遅れる場面もありましたが、その中で「どうすれば的確な判定ができるか」「良いアングルで見るにはどう動くべきか」を考えながら、一つひとつの判定を積み重ねました。そして他県の方々との交流は大きな刺激となり、異なる考え方や視点に触れることで、自分の中に新しい感覚が芽生えました。 現在の自分の立ち位置とこれからの方向性を見つめ直しながら、この研修会を通して多くの学びを得られたことに感謝しています。ここで得た経験や知識を力に変え、審判員として、そして人として成長できるよう、今後も努めてまいります。このような貴重な学びの場に参加させていただき、誠にありがとうございました。 今回の派遣にあたり、大変お世話になった JSB 関東ブロックの皆様、又今大会へ派遣してくださいました埼玉県協会の皆様と、日頃活動でご指導くださる皆様に、心より感謝申し上げます。この経験を連盟や、県内での活動に還元できるよう、研鑽を重ねて行きたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。	

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。

県外派遣報告書

審判員名	岸本 宗也	所属	社会人連盟		
大会名	第3回 JSB関東ブロック審判講習会				
期 間	2025年 8月5日・9日～10日				
会 場	武蔵野総合体育館				
スケジュール					
期 日		場 所			
8月5日	オンライン研修会	ZOOM 参加者自宅他			
8月9日	実技講習会 1日目	武蔵野総合体育館			
8月10日	実技講習会 2日目	武蔵野総合体育館			
会議 講義 内容					
●「3POのベーシックなメカニクスとIOT」と「プレーコール(判定力)を向上させるには」講師:桑原 一貴 氏 ・メカニクスとは、レフリーの技術であり、いつ誰とでもできるためのものである。 ・IOTと自分のプライマリーを守り抜くことが誰とでも協力して円滑に進めるためのカギである。 ・IOTについて ①コールザオブias 「白～グレー～黒」を瞬間的に見て、白黒を判断する」疑似体験を通して →グレー、グレーと続けてしまうと基準が分からなくなってしまう。白と黒をはっきり判定する。 →プレーコーリングにもつながっていく。(まずは、リーガルとイリーガルを仕分けていく) ②ステイショナリーディスタンス 「距離の違いから見やすさが変わること」の疑似体験を通して →自分が判定したいものに対して適切な距離・ポジションを取るためにレフリーするものを把握をする。 ●「A級を目指した試合と向き合い方」講師:増渕 泰久 氏 ・自分が今いる立ち位置からどのようなステップで上級に向かうのか。 ・プライベート・仕事・審判の両立をするための時間の使い方、何を優先するのかを考える。 ・自分が審判をすることは、周りからの理解があるからできることである。					
実技					
担当試合	期 日	8月9日(土)	男子	女子	
	対戦カード	Marksman VS レッドリボン軍	CC	U1	U2
	相手審判	CC: 金子 治 氏(群馬県), U1: 小林 和貴 氏(千葉県)			
ミーティング内容					
主任 白川 義一 氏(東京都) ●ゲーム前のPGC ・オンライン研修会で学んだベーシックメカニクスを再確認した。 ・両チームの特徴として、コミュニケーションをしてくる選手がいることを共有した。 ・リーグ戦の初戦であることから選手も気合が入ることが予測できるので、クルーで準備する。 ●ゲーム後のミーティング ・1ゲームを通して意図的なプレーをこぼすことが多かった。 →プレイヤーのフラストレーションやアピールが増え、ゲームをコントロールし切れなかった。 ・なぜ、意図的なプレーをとらえることができなかったのか。 →ポジションアジャストの意識が低い。ベーシックポジションからの動きが少ない。 - プレーを見るための1,2歩のポジションアジャストや、効果的な体の向け方をもっと工夫する必要がある。 ・見えているものはクルー全体でコールしているので、見えていないもの＝ポジションアジャストの甘いもの、なのではないかという意識をもって、もっとアングルを取りに行ったりしたい。特に、プライマリーにはボールがないが、自分の方向にプレーが来るかもという予測をしてアジャストもしていきたい。					

	期 日	8月10日(日)	男子 女子	
担当試合	対戦カード	日本生命 VS 東京消防庁	CC U1 U2	
	相手審判	CC : 高橋 巨 氏(栃木県), U1 : 籠谷 琢磨 氏(群馬県)		
ミーティング内容		主任 島袋 竹志 氏(東京都)		
●ゲーム前のPGC ・初クルーだからこそベーシックなメカニクスを確認した。 →特に 3 or 2 のフラッシュ、アーリーオフェンスやスクリーンプレーに対する協力の仕方を確認した。 ・処置ミスゼロにするための時間管理の協力とタイムアウト時の確認事項を再認識した。 ・イミディエイト、ペイシエント、ケイデンスホイッスルの確認、認識のすり合わせをした。 ●ゲーム後のミーティング ・1試合通してこのクルーで、このゲームを終わらせたことをポジティブな経験としてとらえて欲しい。 ・1ゲームを通してクルーワークが良かった。 →特に両チームとも3ポイントが多い中で、3 or 2 の協力が1試合通して良かった。 ・レポートのときに声を出して強く表現できているところを継続して続けたい。 ・トレイルは内側に入りすぎず、サイドライン付近からのアウトサイドインを意識すること、リードのときのヘルプディフェンスはどのディフェンスを捕まえておくかを常に認識しておきたい。 →ベーシックなメカニクスの理解をもっと深めていきたい。 ・プレーの質が変わった瞬間、どちらのチームが悪いのかの認識の仕方がクルーとしてももう少し、感じられているとより良い方向にゲームを進められた。 →ハンドチェックなどの手だけでなく、ディフェンスの距離感、体のシリンダー妨害にも注目できるとよい。 ・ファーストコンタクトなどのファーストコールが自分のところに来るかもしれないというマインドセット、準備をいつでもしておきたい。それを波がないように1試合続けられるようにしたい。				
全体の感想				
この度は、JSB関東ブロック審判講習会に派遣していただきありがとうございました。今回、初めて埼玉県を代表して県外の事業へ参加して、県外の方とのクルーやオフコートでののかかわりを経て、いろいろと刺激を受けたとともに、まだまだ自分に足りないものが浮き彫りになったと思います。 特に、オンライン研修会の内容を踏まえながらベーシックなメカニクスを体現してプレーコーリングにつなげられるようにすることを中心に意識して取り組んでいきましたが、まだまだ理解が足りず、自分のプライマリーエリアとアングルの認識とプレーに対する認識、意図的なプレーであるかどうかの理解がまだまだ甘いことを痛感しました。今回の経験を生かして、今後の審判活動にも生かしていきたいという所存です。 最後に、今回の講習会を開催してくださったJSB関東ブロック委員会の皆様、大会を準備してくださった東京都社会人連盟の皆様、また今回派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会、いつもお世話になっております審判員の皆様、並びに社会人連盟の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。				